

- ◆ 会 場：柏崎原子力広報センター 研修室
- ◆ 出席委員：新野・川口・久我・佐藤・高橋(武)・武本・前田・牧委員 …8名
- ◆ オブザーバー：保安院／竹本所長 岡野副所長 熊谷防災専門官 エネ庁／七部所長
東電／長野副所長 森GM 宮武
- ◆ 事務局：柏崎市／野澤主任 広報センター／井口事務局長 石黒主事

次回以降定例会内容について

◆ 6月定例会(6月2日)

〈会長〉 前回運営委員会で「高経年化」について取り上げることにした。具体的な技術論でなく、国としての位置づけや企業としての対策といった基本的なところから説明してもらわないとわからないのではないかと。まずは正しい知識を得ることが必要だろう。

〈委員〉 まずはその説明をしてもらうのがいいのではないかと。

〈保安院〉 高経年化対策を現在行っている発電所も多く、その関係で地元説明も実施しており、資料はある。

〈委員〉 保安院にそういった資料があるならそれを説明してもらえば、だいたいのイメージがわくのではないかと。

(委員 了解)

〈会長〉 指示を出す立場だけでなく、受け手の立場である東京電力からも企業としての取組状況などを説明してもらい、両方の説明を聞かないといけないだろう。

〈東京電力〉 社の全般的な取組と福島での事例などを説明するというところでよいか。

(委員 了解)

〈会長〉 初歩的なことから始めたい。必要があれば第二ステップも考えられるので今回は第一ステップでそのような内容でいいだろうかと。

(委員 了解)

〈会長〉 先回定例会で、委員から「普通の建物と原子力発電所という特殊建物との比較で、『日本建築防災協会』等の基準が確かに当てはまるのか、何度聞いても保安院から明確な回答がない」、「コンクリート強度の問題で、なぜ1号機は7号機と同じ評価基準でやらないのか」、などの意見が気になっている。

専門的知識を持った人にすればたいしたことはないのかもしれないが、住民にすればわからないということ。住民にわかるような説明になっていないために、このような意見や質問が繰り返されるのではないかと。

技術論は県の技術委員会の経過を見ているが、ちょっとした積み残しのフォローは誰がするのかといえばこの会しかないのではないかとという思いの中で、技術委員会と同じレベルの議論をされても絶対にわからない。中学生向けの内容程度にわかりやすくしてもらわないと、住民にとってはわからない、伝わらないのではなだろうか。

〈委員〉 一般の人にしてみれば、建物にひびがあれば心配になる。

〈委員〉 普通の感覚でいえば、厚さ30cmでいいところを、60cm必要というのはなぜかということ。その60cmにひびが入るのはどういうことかということ。

〈委員〉 5月12日に提出された「委員意見・質問等」のなかで、『ひびわれ1.0mmの基準

は、一般建物と原子力建屋でも同じなのか』という質問がある。この回答と合わせて、もう一度説明してもらってはどうか。

(委員 了解)

【決定事項】

- ・ 議事は、高経年化の概略について（保安院）、事業者としての取組（東京電力）
- ・ ひび割れに関して「委員意見・質問」の内容と合わせ、再度説明してもらう。

<タイムスケジュール（案）>

- 19:00～19:30 前回以降の動き、委員質問に対する回答
- 19:30～19:50 高経年化の概略について（保安院）
- 19:50～20:05 高経年化について事業者の取組（東京電力）
- 20:05～20:10 休憩
- 20:10～21:10 質疑応答
- 21:15～ その他

◆ 7月定例会（7月7日）、 8月定例会（8月4日）

【決定事項】

- ・ 次回運営委員会にて協議する。

第7回臨時会について

【決定事項】

- ・ 日時：6月23日（水）
- ・ 場所：割烹「おくい」
- ・ 臨時会 18:00～19:30（予定）
- ・ 懇親会 19:30～（予定）
- ・ 会費 4,500円

視点41号（第81回原稿、第82回原稿）

- ・ 「プルサーマル」には注釈をつける。
- ・ 事務局文案を読みやすく修正し校了。

その他

○ 委員意見・質問について

【決定事項】

- ・ 次回定例会にて回答してもらう。（住民がわかりやすいような説明を要望）

次回運営委員会

6月16日（水）18:30～